野鳥だより

—北海道—

第５７号

編集・発行　北海道野鳥愛護会

発行年月日　昭和59年９月21日

ハシブトガラ　野幌森林公園　撮影　霜村耕一

もくじ

探鳥地案内（東米里）……2
名寄周辺の鳥……松本光二……3
国後島・野鳥の四季（4）冬…藤巻裕蔵……7
保護鳥4題……隅田重義……9
探鳥会報告…野幌・千歳・植苗・東米里……11
探鳥会案内……14
鳥民だより……14

探鳥地案内

東米里

㉖

◆位置　札幌市白石区東米里

◆交通　市営バス―地下鉄菊水駅発「上新川行き」「東米里小学校行き」、中央バス―ターミナル発「江別高校行き」（米里経由）、国鉄バス―札幌駅発「大麻11丁目行き」（米里経由）、いずれも東米里小学校前下車

◆概況　札幌の中心から約9km、厚別新川が流れる附近一帯の草原は泥炭地帯で市街化調整区域に指定されており、資材置場、学校、道路沿いに家が少しある程度、草原にはセイダカアワダチソウ、ススキがおい繁り、かん木林がところどころに見られる。

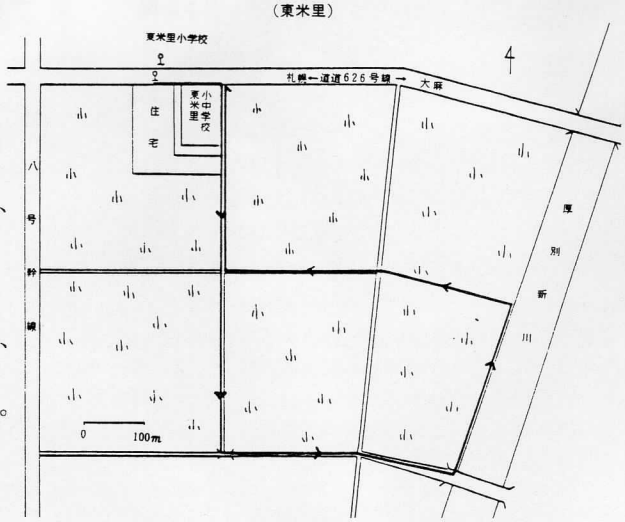
◆探鳥コース　小学校前の道路をまっすぐに進み、道路からまわりの草原やかん木のあたりを見る。草原にはノビタキ、オオジュリン、コヨシキリ、ノゴマなど草原の鳥、林のあたりにはアリスイ、モズ、他にカッコウやオオジシギが飛んでいる。つきあたりを左にまがり厚別新川の堤防を歩く、川原ではコチドリ、イソシギ、たまにアオサギがおりる。きりのいいところで堤防をおり、学校方面へもどる。この地区は一本道ではなく縦横に道路があるので自由に動くことができる。

◆見られる鳥　アオサギ　トビ　オオタカ　チゴハヤブサ　キジ　コチドリ　イソシギ　オオジシギ　キジバト　カッコウ　アリスイ　ヒバリ　ハクセキレイ　ヒヨドリ　モズ　アカモズ　ノゴマ　ノビタキ　アカハラ　エゾセンニュウ　シマセンニュウ　マキノセンニュウ　コヨシキリ　オオヨシキリ　ホオアカ　シマアオジ　アオジ　オオジュリン　カワラヒワ　シメ　スズメ　コムクドリ　ムクドリ

◆その他　5月中旬～6月下旬にかけての早朝5時頃からの探鳥が最高です。たくさんの種類の声が聞こえ姿も現してくれます。

霜村耕一　065　札幌市東区北16条東3丁目
ロジェ北16条303

探鳥地案内地図
（東米里）



名寄周辺の鳥

松本　光二

名寄市は北海道の北部、天塩山地と北見山地に囲まれた名寄盆地の中心、天塩川と名寄川の合流点（以下合流点）に位置している。（図－１）

内陸部であるため気温差が大きく、年間気温較差は60℃以上にもなる。特に冬は厳しく－30℃以下が続く日もまれではない。積雪も多い。平地は水田・畑作地帯で、周辺の山林はミズナラ、シラカンバ等の広葉樹林、トドマツ等の針葉樹林を主とした自然林が広がっている。

鳥は森林性、草原性のものが多く見られるが、合流点を中心に忠烈布湖、智恵文沼等では水鳥も多く集まってくる。しかし、厳寒期の１～２月は周辺の河川湖沼は凍結してしまうため、水鳥の生息条件が悪くなり、ほとんど見られなくなる。

1.　期間

１９７８年４月から１９８４年６月までの６年２カ月

2.　観察地域

名寄市と隣接する風連町、下川町の一部

3.　鳥相の概要

名寄周辺で記録された鳥は40科154種である。このうち繁殖または繁殖の可能性ある鳥は73種で全体の48%であった。野鳥リストについて若干の説明を行う。

(1)サギ科

本地域ではアマサギ、ダイサギ、チュウサギ、アオサギの４種が確認された。アオサギは合流点を中心に天塩川、名寄川両河川一帯に見られる。春は単独ないし、数羽で個体数は少ない。秋は10～30羽の群でいることが多く、83年は天塩川添いに50数羽を数えた。（福田氏）若鳥がかなり多く見られ逗留期間も長い。他のサギについては珍しく、アマサギは83年５月下川町三の橋、ダイサギ、チュウサギは82年５月風連町忠烈布湖で記録された。

(2)ガンカモ科

現在22種のガンカモ類が記録されている。マガン、ヒシクイは毎年名寄上空を通過することが知られているが84年５月30日約300羽の群が名寄野鳥の会々員（大河原黒田両氏）によって確認された。オオハクチョウ、コハクチョウは春と秋に通過する。83年４月風連町瑞生、天塩川々岸にコハクチョウ18羽、オオハクチョウ１羽、名寄市内渕の沼にオオハクチョウ５羽を確認した。84年４月には風連町瑞生の水田でコハクチョウ６羽が確認された。毎年立ち寄るものと思われる。83年10月珍鳥サカツラガンが下川町下パンケに３羽飛来した。オシドリは毎年数羽真勲別を中心に飛来する。83年10月、ヒナをつれたオシドリを確認していることから繁殖の可能性もある。

カモ類の中で、トモエガモ、ヨシガモ、シマアジ、ハシビロガモ、コオリガモは個体数が少ない。

(3)猛禽類

オオタカは79年に名寄市緑丘で営巣を確認して以来83年を除いて毎年繁殖している。ノスリは83・84年、忠烈布の山林に繁殖している。オジロワシは毎年秋から冬にかけ、天塩川上空に見られ、84年２月、３羽のオジロワシを確認した。ハヤブサ、チョウゲンボウの飛来はまれである。

(4)シギ、チドリ類

名寄には干潟がないため、種類、個体数ともに少ない。コチドリが83年６月真勲別名寄川河川敷の50m範囲内に三番営巣した。イソシギ、オオジシギ、ヤマシギを除く他のシギは少なく、ハマシギ、アオアシシギ、ソリハシシギ各１羽、83年８月忠烈布湖で記録した。（水間氏）

(5)キツツキ科

７種が確認されている。忠烈布の山林にクマゲラが生息し、54年５月営巣、しかし６月上旬蛇に襲われヒナが全滅した。コアカゲラは78年以来繁殖を確認、78、79年緑丘で２番繁殖した。冬季期間、名寄公園でしばしばコアカゲラとコゲラを同時に見かける事があるが、79年５

月26日コアカゲラの造巣中、コゲラが現われ、コアカゲラに追れるのを初めて観察した。

(6)ツバメ科

ショウドウツバメは毎年名寄市智東で繁殖、83年7月には市内曙橋の土手で繁殖した。イワツバメは多いがツバメは稀めて少ない。

(7)ヒタキ科

カヤクグリの群が83年7月、84年6月、ピヤシリ山山頂付近で観察された。(黒田、水間両氏)84年6月3日市内豊栄で住宅の窓ガラスに衝突したムシクイの死体が届けられた。メボソムシクイと同定した。

(8)ホオジロ科

84年4月6日、シラガホオジロの番が緑丘で確認された。(佐藤氏)

おわりに。

名寄周辺は比較的自然が残されている。観察地として名寄公園をはじめ、忠烈布湖、砺波ケ丘、旭東、合流点等、随所にみられる。84年6月名寄公園内に市の協力により野鳥の案内板を設置することができた。今後も野鳥の保護のみならず、自然保護にも注視していきたいと思っている。なお今回の野鳥リスト作成にあたって名寄野鳥の会々員に協力をお願いした。

名寄周辺の野鳥リスト

科	種	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	繁殖	備考
カイツブリ	カイツブリ				○							○			名寄川（黒田）81.4、天塩川（水間）83.11
	アカエリカイツブリ			―	―	―	―	―	―	―				◎	忠烈布湖（繁殖）希少
ウミツバメ	ハイイロウミツバメ											○			市街82.11 衰弱死亡
ウ	ウミウ									―	―				数少ない
サギ	アマサギ					○									下川町83.5
	ダイサギ					○									忠烈布湖82.5
	チュウサギ					○									忠烈布湖82.5
	アオサギ				―	―			―	―	―				
ガンカモ	マガン					○									市街上空（大河原、黒田）84.5
	ヒシクイ					○									市街上空（大河原、黒田）84.5
	サカツラガン										○				下川町83.10
	オオハクチョウ			―	―	―					―	―			天塩川
	コハクチョウ			―	―	―					―	―			天塩川
	オシドリ				―	―						―		○	
	マガモ	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	◎	
	カルガモ				―	―	―	―	―	―	―			◎	
	コガモ				―	―	―			―	―	―		○	亜種アメリカコガモ合流点
	トモエガモ				―	―									数少ない　（黒田）82.5
	ヨシガモ				―	―									数少ない
	ヒドリガモ				―	―					―	―			
	オナガガモ			―	―	―					―	―			
	シマアジ				―	―									数少ない
	ハシビロガモ				―	―									数少ない
	ホシハジロ			―	―	―						―	―		
	キンクロハジロ			―	―	―						―	―		
	スズガモ			―	―	―						―	―		
	コオリガモ	―													数少ない
	ホオジロガモ	―	―		―							―	―		
	ミコアイサ	―	―										―		数少ない
	カワアイサ	―	―	―	―						―	―	―		
ワシタカ	ミサゴ					―	―	―							希少
	トビ	―	―	―	―	―						―	―	◎	
	オジロワシ	―	―	―	―							―	―		数少ない
	オオタカ				―	―	―	―	―	―	―			◎	緑丘（繁殖）
	ハイタカ					―	―				―	―			希少
	ノスリ				―	―	―	―	―	―	―			◎	忠烈布湖（繁殖）

科	種	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	繁殖	備考
ハヤブサ	ハヤブサ					—	—								まれに飛来
	チゴハヤブサ				—	—	—	—	—	—	—			◎	
	チョウゲンボウ		○	○											徳田81.3、旭東84.2
ライチョウ	エゾライチョウ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	◎	
	コウライキジ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		数少ない
クイナ	クイナ					—	—	—	—					○	数少ない
	バン					—	—	—	—					◎	農高池、大河原宅沼(繁殖) 希少
チドリ	コチドリ					—	—	—	—	—				◎	旭東（繁殖）
シギ	トウネン				—	—									数少ない
	ハマシギ								○						忠烈布湖（水間）83.8
	アオアシシギ								○						忠烈布湖（水間）83.8
	タカブシギ				—	—	—				—				
	キアシシギ					—	—		—	—					
	イソシギ				—	—	—	—	—	—	—			◎	
	ソリハシシギ								○						忠烈布湖（水間）83.8
	ヤマシギ					—	—	—	—	—				◎	緑丘（繁殖）
	タシギ				—							—			
	オオジシギ				—	—	—	—	—	—	—			◎	美深（繁殖）
ヒレアシシギ	アカエリヒレアシシギ				○										忠烈布湖82.5
カモメ	ユリカモメ				—	—									数少ない
	セグロカモメ			—	—	—							—		
	アジサシ				—	—									
ウミスズメ	コウミスズメ	○													市街83.1 衰弱死亡
ハト	キジバト				—	—	—	—	—	—	—			◎	
	アオバト					—	—	—							数少ない
ホトトギス	カッコウ					—	—	—	—					◎	
	ツツドリ				—	—	—	—	—					○	
フクロウ	コミミズク		—										—		まれに飛来
	コノハズク										○				緑丘82.9 死体
	オオコノハズク							—	—						数少ない
	フクロウ	—	—	—	—			—	—					○	
ヨタカ	ヨタカ						—	—	—						
アマツバメ	ハリオアマツバメ						—	—	—						
カワセミ	ヤマセミ		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		○	希少
	アカショウビン						—								智東 希少
	カワセミ					—	—	—	—	—				◎	中名寄（繁殖）
キツツキ	アリスイ					—	—	—	—					◎	緑丘（繁殖）
	ヤマゲラ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	◎	忠烈布湖（繁殖）
	クマゲラ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	◎	忠烈布湖（繁殖）
	アカゲラ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	◎	
	オオアカゲラ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	◎	忠烈布湖（繁殖）
	コアカゲラ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	◎	緑丘・名寄公園（繁殖）
	コゲラ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	◎	忠烈布湖（繁殖）
ヒバリ	ヒバリ			—	—	—	—	—	—	—	—			◎	
ツバメ	ショウドウツバメ						—	—	—					◎	智東（繁殖）
	ツバメ				—	—									数少ない
	イワツバメ						—	—	—	—				◎	

科	種	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	繁殖	備考
セキレイ	キセキレイ				—	—	—	—	—					◎	忠烈布湖・旭東（繁殖）
	ハクセキレイ			—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	◎	
	ビンズイ				—	—	—	—	—	—					
	タヒバリ				—	—									数少ない
ヒヨドリ	ヒヨドリ	—	—	—	—	—	—			—	—	—	—	○	
モズ	モズ				—	—	—	—	—	—	—			◎	
	アカモズ				—	—	—	—	—	—	—			◎	
	オオモズ			—	—						—				まれに飛来
レンジャク	キレンジャク		—		—										
	ヒレンジャク			○											数少ない
カワガラス	カワガラス	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	智東
ミソサザイ	ミソサザイ				—	—	—			—	—				
イワヒバリ	カヤクグリ						○	○							ピヤシリ山（黒田・水間）83.7 84.6
ヒタキ	コマドリ						—	—							
	ノゴマ				—	—									数少ない
	コルリ					—	—		—					○	
	ジョウビタキ							○							緑丘（黒田） 78.7
	ノビタキ				—	—	—	—	—	—	—			◎	
	マミジロ						—	—	—					◎	ピヤシリ山で繁殖
	トラツグミ					—	—	—	—					○	
	クロツグミ					—	—	—	—					○	
	アカハラ					—	—	—	—	—				○	
	シロハラ				—	—									希少
	マミチャジナイ										—	—			数少ない
	ツグミ	—	—	—	—	—					—	—	—		
	ヤブサメ					—	—	—						○	
	ウグイス					—	—	—	—					○	
	エゾセンニュウ						—	—	—					○	
	マキノセンニュウ						—	—	—					○	
	コヨシキリ					—	—	—	—					○	
	オオヨシキリ					—	—	—	—					◎	合流点（繁殖）
	メボソムシクイ						○								市街　死体 84.6
	エゾムシクイ						○								緑丘 84.6
	センダイムシクイ					—	—	—	—					○	
	キクイタダキ			—	—						—	—			数少ない
	キビタキ					—	—	—	—	—				◎	
	オオルリ					—	—	—	—	—					
	エゾビタキ					○									緑丘（黒田） 78.5
	コサメビタキ					—	—	—	—						
エナガ	エナガ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	
	ハシブトガラ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	◎	
	コガラ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	◎	
	ヒガラ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	◎	
	ヤマガラ					○									名寄公園 84.5
	シジュウガラ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	◎	
ゴジュウカラ	ゴジュウカラ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	◎	
キバシリ	キバシリ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	◎	忠烈布湖（繁殖）
ホオジロ	シラガホオジロ				○									◎	緑丘（佐藤） 84.4
	ホオジロ				—	—	—	—	—	—				◎	
	ホオアカ				—	—	—	—	—						
	カシラダカ	—	—	—	—							—	—		

科	種	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	繁殖	備考
ホオジロ	シマアオジ														数少ない
	アオジ													◎	
	クロジ					○									内淵（黒田）84.5
	オオジュリン														数少ない
アトリ	アトリ														
	カワラヒワ													◎	
	マヒワ														
	ベニヒワ														
	イスカ														まれに飛来
	ベニマシコ													◎	旭東（繁殖）
	ウソ														
	イカル													○	数少ない
	シメ													◎	緑丘（繁殖）
ハタオリドリ	ニュウナイスズメ													◎	
	スズメ													◎	
ムクドリ	コムクドリ													◎	
	ムクドリ													◎	
カラス	カケス													○	
	ハシボソガラス													◎	
	ハシブトガラス													◎	

国後島・野鳥の四季 (4) 冬

藤巻 裕蔵

冬は11月中旬から3月中旬までの4か月である。この季節には夏鳥の渡去、国後より北へ繁殖した渡り鳥の渡りが終り、また留鳥や冬鳥もあまり移動しなくなって、鳥の数は非常に減少した。

1962年11月中旬から1963年1月中旬までの冬前半は根雪とならず、多くの鳥類が越冬できる。根雪になると、1月中旬まで国後で冬を過していた鳥は南に渡った。冬の後半は3月中頃、最初の渡り鳥が現れるときまでである。1962年に最初に零下になったのは11月7日で、あられが降ったのは11月13日であった。降雪とともに南千島では冬となった。

11月末にキアシシギ、ハクセキレイ、タヒバリ、ホオジロの渡去が終る。ツグミ、ギンザンマシコ、アトリ、ハギマシコ、カワラヒワの移動が続いていた。降雪とともにミソサザイの移動はとまった。この鳥は森林の低木層、凍らない川の川岸、温水の出る近くの礫地で越冬していた。コゲラ、シジュウカラ、ヒガラ、ヤマガラ、ハシブトガラ、ゴジュウカラ、キバシリ、キクイタダキの群が林内を動きまわっていた。凍らない川ではトビ、オジロワシ、オオワシ、イヌワシ、ワタリガラス、ハシボソガラス、ハシブトガラスが数多く集まり、まれにウミネコ、セグロカモメ、ノスリ、カケスが来てホッチャレのサケを食べていた。太平洋やオホーツク海の沿岸では海鳥の移動が続いた。

11月末には平野部、山の南斜面、海岸では初雪はとけた。11月末まで天気は不安定で、みぞれやあられが降った。湖岸には氷がはったが、暖かな日には氷はとけた。

12月初には国後で越冬するベニヒワが現れた。12月にはツグミ、アトリ、ハギマシコ、カワラヒワ、シメの大部分は渡去し、南千島ではこれらの鳥のごく一部が残った。死んだサケを食べる鳥の数は、北から飛来する鳥が加って著しく増えた。12月末にはカルデラ湖や噴気のある湖以外の全ての湖は凍結した。これらの湖で冬を過していたマガモ、コガモ、キンクロハジロ、ホオジロガモ、カワアイサ、ウミアイサといったカモ類は南へ渡去するか、一時海に現れただけである。沿岸部では海鳥が渡り続けた。

12月にはまだ根雪にならなかった。1962年12月初に国後全域に降雪があったが、12月中旬には平野部や山の南斜面ではとけて消えた。12月いっぱい雪が降ってはとけた。12月末には暖かとなり雨が降った。

1963年1月初に強い北風が吹いた。暖かな日は寒い日に変り、雨は雪となり多く降った。海では7～8バールの暴風雨となった。1月上旬に根雪となった。急に30cm

もの雪が積ると、地上で採餌する鳥は国後島を去り、日本の雪の少ない地方へ渡らざるをえなくなった。例えば、国後の古丹消付近で雪が降ったあと単独のホオジロとシラガホオジロが現れたが、12月いっぱいは見られなかった。森林内の凍らない川では単独のタシギやヤマシギが大雪の降ったときに見られた。

1月中旬までにホッチャレのサケを食べていた鳥は手にはいる魚をなんでも食べていた。この時期に始まる厳寒で、川の流れのゆるやかな所は凍った。積雪が少なくても食物が少なくなると食肉鳥は国後島を去った。1月中旬末には全てのトビが、下旬には大部分のオジロワシとオオワシ、イヌワシ、ノスリが島から去った。サケの産卵場所には小数のノスリやオジロワシが残り、ワタリガラス、ハシボソガラス、ハシブトガラスは海岸や人家近くに飛来した。冬中、サケの産卵場所にはシマフクロウが見られた。雪が降ると森林で見られるオオコノハズクが多くなった。この鳥は薄暮時に人家や空家に飛来し、ネズミ類を捕える。1月中旬から冬の終りまで古丹消ではオオコノハズクが倉庫、物置、空家でドブネズミを捕えて食べていた。

暴風雨のあと国後島の海岸にはよく鳥の死体がみられた。これから判断すると、12月と1月前半に国後のオホーツク海沿岸ではエトピリカ、ウトウ、ウミガラス、ハシブトウミガラス、ツノメドリ、エトロフウミスズメ、コウミスズメ、ウ類が移動している。ヒメクビワカモメ2羽の死体が1月9、10日に見つかった。1月下旬初にワシタカ類と地上で採餌する小鳥類の大部分が渡去し、冬の後半が始まった。

1963年1月末に北風がオホーツク海から流氷を運びはじめた。国後の沿岸には冬中開水面が2か所あり、一つはセルヌイ岬、もう一つは温泉の湯が混じるオゼルナヤ川が注ぐ所である。冬の後半にセルヌィ岬の開水面にウ類、ホオジロガモ、ウミアイサがいた。南千島の水域で越冬する海鳥は太平洋の氷のない海上にいるか日本の近海へ渡った。

東沸湖ではルィボラズヴォドナヤ川が注ぐアッペンディクス湾が唯一の開水面で、ここではマガモ、コガモ、ホオジロガモ、アイサ類、まれにキンクロハジロが越冬していた。吹雪が続くとこれらの鳥は山地河川の凍らない所で見られ、暖かい日には根室海峡で採餌していた。凍らない山地河川沿いではアオシギやカワガラスが越冬した。泊山のカルデラ内にある一菱内湖は2月初までに完全に凍り、また凍らないが餌のないキピャシシェ湖では暖かい日にオオハクチョウや何種類かのカモ類が休んでいた。

1963年の冬の後半にほとんど毎日雪が振った。3月上旬に山腹の林内の積雪は1.5m、谷では2mに達した。1月初に、温泉近くの凍っていない所や雪のない所で採餌する小数のアトリ、ハギマシコ、ベニマシコ、カワラヒワ、シメ、シラガホオジロを除くと、地上で採餌する鳥はすべて渡去した。

温泉は越冬する鳥にとっては非常に重要である。雪や吹雪が続くと、温泉周辺では餌をさがしたり風をさけてやってくるシジュウカラ、ハシブトガラ、ゴジュウカラ、カワラヒワ、ベニヒワが見られ、ときにはジョウビタキが見られたこともある。冬中ベニヒワの群は垣に飛来し、雑草の種子を食べていた。

常緑針葉樹林にはヒガラ、ヤマガラがおり、これにゴジュウカラ、キバシリ、キクイタダキが加わることもあった。エナガ、シジュウカラ、ハシブトガラ、ゴジュウカラはいろいろのタイプの森林におり、しばしば人家付近に飛来した。コゲラは5～10羽の群で主としてハンノキの混交する河畔林にいた。冬中クマゲラは単独、まれにつがいで見られた。ウソはほとんど移動せず、主にノリウツギや、まれにキハダやツルウメモドキの実を食べていた。

人家付近で越冬するのは、スズメ、カケスで、まれにハシブトガラスの群がいた。ワタリガラス、ハシボソガラス、ハシブトガラスの大部分は南千島の太平洋側の海岸におり、波にうちあげられたいろいろな動物の死体を食べていた。1962年のハイマツの実りがよくなかったとき、国後島で繁殖したホシガラスはすでに冬が始まると同時に渡去した。1963年2月4日に1回だけ古丹消でごみ捨て場でクマの骨をつついている弱ったホシガラスが見られた。ワシタカ類で見られたのはオオタカとハイタカである。冬に国後島とその沿岸部で90種の鳥類が記録され、そのうち62種が島の陸上と不凍淡水域で越冬した。　冬の後半には、前半と同様に天候は不安定であった。降雪、吹雪、強風の日と晴天の日が交互にあった。1962—1963年冬の最低気温は－10℃であった。山の日当りの良い斜面では毎日雪がとけた。まれに2月の寒い日には霧が発生し、山頂や海岸の崖をおおった。3月上旬末に国後島の海岸の砂礫浜では雪が消えた。車道の雪が消えはじめ、ここにカケス、カラ類、ゴジュウカラ、ウソが馬糞の中の未消化エンバクを食べていた。3月中旬頃までに日当りのよい所の雪は消えた。群で動いていたカラ類、ゴジュウカラ、キツツキ類が繁殖場所へもどりはじめた。ムクドリの渡来で冬が終り、春が始まる。

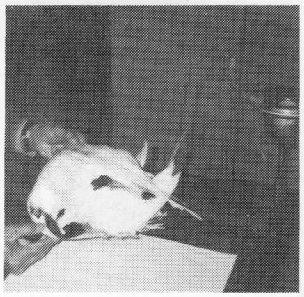
以上のように、国後島の島の季節は4つの季節にわけられる。すなわち春—3月中旬から6月初、夏—6月初から8月中旬、秋—8月中旬から11月中旬、冬—11月中旬から3月中旬、である。それぞれの季節の鳥の生活は特徴をもっているのである。

保　護　鳥　4題

隅田　重義

1. アカオネッタイチョウ

初めてお目にかかった。1972年〝日米渡り鳥保護条約〟189 種の中の保護鳥である。渡島支庁自然保護係長よりの連絡で早速吉沢、隅田（鳥獣保護員）２人で函館税関に保管されていたのを引きとりに出向いた。この珍しい保護鳥は日本漁船が南半球ニュージーランド沖合い（熱帯地域）を帰国の途中、後甲板に墜落死体となっていたのを船員が発見、これは美しい珍しい鳥と船長の許可を得て冷凍庫におさめ持ち帰ったものであった。私たちは税関の監視官立会いのもとで、アカオネツタイチョウであることを確認した。冷凍庫から出したばかりなのでかたくなっていたが話をしているうちにやわらかくなった。カモメに似ているが羽毛の色（薄トキ色）がとても美しく体長は30㌢位。赤い嘴、２本の赤い細長い尾羽（30㌢位）は撫でてみたがこれは飾りかな、電波探知機かな、と笑った。何せ美しく初めて見る鳥なので剝製になってからも何度もなでてみた。感触極めて良くカモ類の比ではなかった。先頃ＮＨＫ自然のアルバムを観賞中、青空を大群で渡るアカオネッタイチョウの優雅な姿にはしばし見とれた。このように貴重な剝製となったのは、道・支庁並びに環境庁と協議の上になったものである。



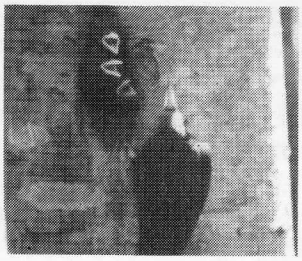
現在、コクガンと共に渡島支庁自然保護係に保管されている。我国では台風で保護された記録（幼鳥）はあるが本道では極めて珍しいということである。

2. コ　ク　ガ　ン

コクガンは、日米、日ソ渡り鳥条約の保護鳥であり我国では昭和46年に国の天然記念物に指定されている。こうして剝製として目の前に見たのは初めてである。貴重な資料となった。各関係庁と協議の上になったもので上磯知内教育委員会に保管されている。この鳥は４月４日の午後４時頃上磯東浜の波打ち際で弱っているのを保護されたが、函館公園で衰弱死したものである。冬の頃になると函館湾内わけても干潮時に遠くまで磯の出る海藻を求めての群来で見事であるがリーダーがきびしく中々人を寄せつけないのでいつも干潮時を利用しては観察と撮影に出かけた。飛来の初めと終わりとを確認した。私たちは初めてコクガンの大好物の海藻がこんなに多くあったのか…と驚いた。それも一部に限られていたのをとうとう発見した。よくあの海藻で太り長旅ができるかと感心もした。何せ見通しがよい海岸なので撮影には苦心をした。北から北米からと、この海岸にやってくる。環境の良さ、保護はいつまでもと思う。

3. ク　マ　ゲ　ラ

函館市亀田川上流にある人工林トド松林で52年から継続観察58年までに、巣立ったヒナの数は17羽、（オス10羽、メス７羽）今年は、ヒナ４羽、あの狭い巣穴からは３羽が顔を出すのがせいいっぱい。弱いのは顔どころか穴に沈んで出てこれない。しかしけんめいにせめて餌をもらうくちばしだけでもと、大へんなものである。とうとう４羽の顔は見られなかったが吉沢鳥獣保護員が８ミリ撮影のひとこまの中に、４つの嘴があるのを確認した。写真の通り、どっちが親なのか子なのか、大きな口をあけて、親にせがむ姿はかわいい。私は音声の入る８ミリであの鳴き声、セミの声、カラスの声など、映写する度に現在の想い出にひたる。２人でこれまでに観察記録集３部ができて嬉しい。私たちは、静かな中に巣立って行ったヒナたちに対する十分



な配慮が必要だと感じた。徒らに巣穴やヒナや環境荒らしでは撮影も調査も鳥にとってはまことに迷惑きわまる事である。意地わるいようではあるが営巣場所には案内したりは、しなかった。時には電話でぜひ場所を和らしてほしいなどと、あったが鳥への配慮から保護を優先としたのである。

4. ム ク ド リ

この鳥も1973年日ソ渡り鳥等条約、287種の中の保護鳥である。写真の樹洞にまつわる美談感激を記してみる。ムクドリのヒナが声をあげて親の餌を待っている。この保護鳥は習性上人家付近と樹洞に営巣する。場所は五稜郭濠近くの松林、ここに道営のアパートが立ち並んでいる。この住宅の角から3㍍とない樹洞にヒナを育てていた。或る朝、電話がなり、〝あなたは鳥獣保護員の隅田先生ですか〟と親しい声。鳥の話である。急ぎ場所に行ってみると主婦と子ども（小2）がいた。親鳥は交替も忙しくヒナに餌を与えていた。〝どうしましたか〟ときくと〝この通りアパート全部が古くなったので全部取りこわすので〟と言う。〝私たちもとうに家を見つけて移りましたが〟という。〝この樹洞の木は今朝から住宅と共に根こそぎ取り払われます。あとどの位で巣立ち出来るのでしょう〟先程からの様子からみると〝あと4、5日と思います〟〝何とかこの樹だけ残すわけにはいかないものでしょうか〟という相談であった。〝かわいそうにかわいそうに〟と親子が言う。30分も話して様子を見ているうちに取りこわし作業員がヘルメット姿で大きな爪のある大型車もやって来た。私は監督の方に相談してみようと作業小屋へ、15人程お茶を飲みながら今日の日程打合わせであった。〝監督さん〟はと尋ねると後向きであった方が急にこちらを向くなり〝あゝ隅田先生でありませんか、元気で久しぶりですね〟と言われて見ると自動車免許の時、指導したことのある人であったので早速ムクドリの件を話すと〝あゝいいですとも〟〝命令一下〟向う側から取りこわす。ここは最後、隅田さん、あと4、5日ですね〟と言う。鳥にきいてみたわけではない。そう言われるとさっぱり自信がない。私は親子に別れて帰り翌日行ってみると、ムクドリはそれとも知らずに餌を運んではいたが、はやく巣立ってくれよ、とヒナを見た。また翌日も行く。監督と作業員とにたのんで帰った。工事を見ると取りこわしにはまだ2、3日は十分あるな、と翌日の昼頃作業員とお茶菓子をつまみながら、保護員の役目は亦楽しいかな、と。2日おいて行ってみると樹洞は低いのでよく見える。親も来ない、ヒナは巣立ったのだ、と安心した。〝4、5日で巣立でしょう〟がほんとうになり監督と作業員にほめられて腹がくすぐったかった。私は改めて樹洞に背伸びしてからゆっくりと眺め写真をとったが、私にとっては今は無いが記念のムクドリと樹洞の姿である。さて住み慣れた主婦の家も樹洞もなく新しい道営アパート工事が勇ましい音をたてて行われていた。別名ホウネンドリというムクドリはよく虫を捕えてくれる。秋空高く大群で鳴きながら舞う。私もハンターの一員そして鳥獣保護員、今年は鳥は知らずともよいことをしてやったと心は安らかだ。私は私に知らせてくれた親子の愛情にうたれ、また作業を変更して最後にあの住み家、樹洞をムクドリを嘆かせない始末に便りを出して感謝した。

野　幌　　59. 4. 29　白沢　昌彦

6歳になる息子を連れて久し振りに探鳥会に参加した。前日の28日は、最高気温が20℃もの陽気だったが、今日は、風が大変強く、くもり空でかなり寒い。集合場所近くで車を降りるとオオジシギが、独特の羽音を鳴らしていた。先週も同じ野幌で探鳥会があったが、この時は、かなり雪があったそうで、今日は、園路の一部に雪がのこってはいるが、ほとんど地面が出ていた。園内に入っても風はかなり強く、小鳥たちのさえずりは、ほとんど聞こえない。アオジが園路に落ちた木の種子をついばんでいる。天気が良ければ、うららかな陽ざしの中で、胸を張ってさえずっている姿が見られたことだろう。

道端の早春の代表的な草花であるエゾエンゴサク、フクジュソウ、ザゼンソウ、ミズバショウが花をつけ始めていたが、寒さに震えている感じである。

でも、鳥たちにとっては、繁殖の時期であることは間違いなく、キジバトはデデッポッポーと鳴き、姿は見えないが笹やぶの中から聞こえる虫の音のような鳴声のヤブサメ、木の皮を巣材として集め歩いているキバシリ、そして巣穴を一所懸命に穿ち、口ばしに木くずをくわえ

てきて外に投げ出しているオオアカゲラなどを見ることができた。キバシリを久し振りに見たのでゆっくり姿を見せてもらおうと思ったが、見失ってしまい誠に残念であった。

最後に、いつものチェックリストを使っての鳥合わせを始めたところ頭上でヤマゲラがコンコンコーンとドラミングのサービスをしてくれました。

帰宅後、息子に今日の感想を書かせたところ「とりがみえなかったが」とまで書いて寝てしまいました。

〔記録された鳥〕　アオサギ、オシドリ、トビ、オオタカ、ハイタカ、ヤマシギ、オオジシギ、キジバト、ヤマゲラ、アカゲラ、オオアカゲラ、コゲラ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ミソサザイ、ルリビタキ、トラツグミ、ヤブサメ、マキノセンニュウ、ハシブトガラ、ヤマガラ、シジュウカラ、ゴジュウカラ、キバシリ、アオジ、カワラヒワ、ベニマシコ、ニュウナイスズメ、カケス、ハシブトガラス、　以上31種

〔参加者〕　谷口登志、堀内　進、清水　幸・朋子・亜樹子、萩　千賀、福井すえ、柳沢信雄・千代子、曽根モト、清田吉晴、白沢昌彦・光明、横田通典、岩泉ゆう子、田辺　至、金島良子、泉屋宜志、大坊幸七、霜村耕一、浅沼佳代子、羽田恭子、長谷川涼子、(23名)

〔担当幹事〕　羽田恭子、長谷川涼子

064　札幌市中央区南17条西18丁目7-1

野　幌　　59．5．13　　国本　昌秀

私が生まれて初めて「探鳥会」に参加したのは、56年の春だったと思います。同じアパートに住む勤め先の上司に野幌森林公園で行なわれた探鳥会に誘われたのです。

そして今回、実に3年ぶりに野幌にやってきました。非会員で新聞を見て参加させて頂いたのに、いろいろと、ご親切に教えて頂いて本当に楽しい一日でした。

3年前、私をとりこにしたのは、メジロでした。目のまわりが本当に白くて、びっくりしました。そして足のツメや、口ばしが上下に、いそがしく動いているところまで見えて、胸が高鳴ったのを今でも覚えています。野山をかけ巡っていた子供のころを思い出したような気がしたものです。

今回、おめあてのメジロはさえずりだけで、私は見ることができず無念さをかみしめた訳ですが、実は「さえずり」さえ自分では聞き分けられないのですから、あれはメジロ、これはクロツグミ、あっちはルリビタキと聖徳太子の様に聞き分ける先輩を見るにつけ尊敬とシットの念に包まれ、実にもんもんとした気分で昼食を頂きました。

それでも、キバシリやニュウナイスズメを初めてみることができ、愛用の図鑑に◎印を付けたりして、昔の戦闘機乗りの様にハシャイだ気分になりましたが、鳥の数を増すのではなく、いかに鳥や野山と仲良くなるかを、もっと真剣に考えなくてはと反省することしきりなのですが……アカショウビンが見たくて見たくて、本当は夜も寝れません。(本当は朝早く起きれないだけです)

3年前を思い出しますと、同じメンバーの方もいらした様で、愛護会に“因縁”の様なものを感じ、今日入会させて頂きました。今後ともよろしくお願いします。

〔記録された鳥〕　トビ、ハイタカ、キジバト、ヤマゲラ、アカゲラ、オオアカゲラ、コゲラ、ヒヨドリ、ルリビタキ、トラツグミ、クロツグミ、アカハラ、ヤブサメ、ウグイス、マキノセンニュウ、センダイムシクイ、エナガ、ハシブトガラ、ヒガラ、ヤマガラ、シジュウカラ、ゴジュウカラ、キバシリ、メジロ、ホオジロ、ホオアカ、アオジ、カワラヒワ、ベニマシコ、ニュウナイスズメ、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス、以上33種

〔参加者〕　松永圭子、関口健一・洋子・誠・晃、井上公雄、水崎　満、園部恭一、戸津高保・以知子、浪田良三、柳沢信雄・千代子、羽田恭子、岩泉ゆう子、青木二郎、萩　千賀、田辺　至、国本昌秀、横田通典、江中恵一、早瀬広司、道川　弘・冨美子、泉屋宜志、大坊幸七、中山尚子、谷口登志、曽根モト、矢口兼江、野口正男・キヨ、長谷川涼子、以上33名

〔担当幹事〕　関口健一、道川冨美子

064　札幌市中央区南6条西26丁目円山グランドハイツ703

千　歳　　59．5．19～20　　五十川　ヒロカ

探鳥会は、一応2回目の参加。動機不純で半分はジンギスカンという「餌」につられて来る気になった次第で、だれよりも鳥の知識の少ない私がこういう原稿を書くのはなかなかたいへんです。

5月、日中でもまだ寒い日が多く、朝の4時ごろなら軍手でもはかないと手の感覚がなくなりそう。

もやがかかった冷気の中で、鳥の声が元気よく響きます。負けじと人間の方もすばやくプロミナーを立て、出発前から早々と盛りあがっているのには少しびっくり。

本当に鳥好きの人ばっかりなんだとつくづく思ったのでした。いよいよ歩きだしてみるとなんだかんだとけっこういるもので、約50種類も見られたのに驚き、おもしろかったですが、悲しいかな。ふだんは家のバードテーブルに来る数種の鳥しか見ていないので、ああ次から次へと知らないのが出てくると、よしっ、覚えると思っても次の鳥が出現するともう忘れているのです。

比べてプロの方はまるで違いますね。サッと飛んだ影を見た瞬間、「○○だわ」と言うんですから、なんかマジックみたいだなあと感心するばかりです。

それにどんな所にいるのでも、めざとく見つけてしまう。橋の脚下で遊んでいるカワガラスや遠くの電信柱の上にとまっているイソシギなど。

今回一番おもしろく感じたこと。ツツドリとカッコウの関係です。同じホトトギス科とはいえ、どうしてあんなにも姿が似ているのでしょう。見ただけでは見分けがつかないようですね。人が創ったわけでもないのに本当に不思議。お互い利益はあるのでしょうかね。

結局、鳥の名前はあまり覚えませんでしたが、たまに早く起きて何もかも忘れて緑の中を歩くのもいいものでした。長い日曜日となりました。

（人間のいびきはもうたくさんです。）

〔記録された鳥〕　アオサギ、オシドリ、マガモ、コガモ、キンクロハジロ、ミサゴ、トビ、イソシギ、オオジシギ、キジバト、アオバト、ツツドリ、ヤマセミ、ヤマゲラ、アカゲラまたはオオアカゲラ、コゲラ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ヒレンジャク、カワガラス、コマドリ、トラツグミ、クロツグミ、アカハラ、ヤブサメ、ウグイス、エゾムシクイ、センダイムシクイ、キビタキ、オオルリ、コサメビタキ、ハシブトガラ、ヤマガラ、シジュウカラ、ゴジュウカラ、メジロ、ホオジロ、アオジ、カワラヒワ、ベニマシコ、イカル、シメ、ニュウナイスズメ、スズメ、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス、以上50種

〔参加者〕　藤谷昭典、田辺　至、横田通典、堀内　進早瀬広司、国本昌秀、武沢和義・佐知子、柳沢信雄・千代子、谷口一芳・登志、山崎カツエ、平川悠子、太丸りつ、矢口兼江、羽田恭子、清田吉晴、霜村耕一、戸津高保・以知子、栃本健二郎、曽根モト、五十川祐至・ヒロカ・ハナ・祐弘、岩泉ゆう子、野々村　菊、西村辰夫、屋代育夫、久保田共子、大坊幸七、長谷川涼子、以上34名

〔担当幹事〕　早瀬広司、羽田恭子、長谷川涼子

〒６６２　札幌市豊平区里塚464

（早朝１泊探鳥会報告）

寝袋持参の探鳥会なんて閑古鳥が鳴くのではと心配しましたが多数の会員の参加を得、探鳥係として大変嬉しく、本当にありがとうございました。千歳川周辺は鳥の種類も多く、この日は50種観察出来ました。（コマドリを見た幸運な人たちもいましたよ）朝が早いと、より多くの鳥達に出会えることだと痛感した１日でした。

今回の一泊早朝探鳥会は幹事が不慣れのため、いろいろ至らないことばかりで反省しています。又、解散時間をオーバーし、ご迷惑をかけた方々には深くお詫いたします。

●婦人用スエットパンツの忘れ物がありました。お気付の方は電話８６５－１７３５長谷川まで

植　苗　　59．6．17　　伊沢　雅子

植苗の探鳥会は、その前の「野幌森林公園を歩きましょう」に飛入り参加し、会員になって始めての参加でした。札幌を出た時は、晴れて天気が良かったのですが、植苗に着いてからは、曇り始め、肌寒い中を歩きました。

草原までは、車道の傍で、アオジ、ホオジロ、また、電柱の所にニュウナイスズメの巣があるのが見られました。草原に入ると、私達の頭上で飛ぶ、オオジシギの「ズビーヤク　ズビヤク　ゴゴゴ」と急降下し風を切る音が真先に聞こえました。このオオジシキのディスプレイの音の凄さには、驚かされます。仲々見ようと思っても良く見えませんでした。今迄、木に止まっている鳥しか見た事がなかった私は、草原に出て見るのは、始めてでした。

視界は広いものの、今、鳥達も子育てに忙しく、出て来ては、すぐ草むらに隠れてしまったり、双眼鏡になかなか入れれないでみると、まわりの方がフィールドスコープに入れて見せてくれたり、本当に良くきれいに見えました。シマアオジの鮮やかな、黄色い胸の色、本当にきれいでした。コヨシキリも細い嘴を大きくあけ、ヨシの上に器用に止まり、さえずっていました。ノビタキも番いで仲よく一本のヨシに止まっていたり、また風が吹くと揺れるのに、ブランコのように一緒に体も動いていたり、良く落ちないなあと感心して見てました。本当にい

ろいろな鳥を見ていると、とてもしぐさが可愛いのです。

ウトナイ湖の端になる私達の歩く近くでもコブハクチョウが子供をつれて泳いでいました。みにくいあひるの子と呼ばれてた、まだグレー色の羽をしています。もう白鳥は帰ってしまったと思ってたのですが、美しい姿が見れました。

川の方では、オオジシギが歩いていて、ようやく見れたという感じでした。飛んでる時は、よく見えなかったのです。その横でシマアオジが水浴びをしていました。とてもかわいらしかったです。探鳥の後は、寒さに少し震えながら来た道で花を見ながらもどりました。鳴き声では、まだどの鳥かは、よくわからないものの、鳥を見つけた時は、本当にうれしくなります。草原の鳥は、注意してよく見ると見やすいなあと思います。また違う草原に鳥達の美しいさえずりを聞きに出かけようと思います。

草原の鳥から水辺の鳥まで見れ本当に楽しい一日でした。

〔記録された鳥〕　アオサギ、マガモ、カワアイサ、トビ、イソシギ、オオジシギ、キジバト、カッコウ、アマツバメ、ヒバリ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、アカモズ、ノビタキ、コヨシキリ、キビタキ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、ホオアカ、シマアオジ、アオジ、オオジュリン、カワラヒワ、ベニマシコ、ニュウナイスズメ、スズメ、ハシブトガラス、コブハクチョウ、以上29種

〔参加者〕　岡　尚美、浪田良三、泉屋宣志・恵津子、山田甚一・れい子、中　まり子、福岡研也・正樹、伊沢雅子、柳沢千代子、井上公雄、清水朋子、武沢和義・佐知子、小畑克彦、野々村菊、曽根モト、小堀煌治、谷口登志、矢口兼江、中・博道、黒田聖子、平川悠子、戸津高保・以知子、道川　弘・冨美子、萩　千賀、堀内　進、関口健一・誠、岩泉ゆう子、長谷川涼子、以上34名

，〒０６５　札幌市東区北16条東１丁目　松井ハウス

東　米　里　　59．6．24　　安達　英一

やっと目にした見知らぬ鳥をけんめいに双眼鏡で追い図鑑と首っぴきでようやく確認できた時の喜びは本当に素晴らしいものです。西岡水源池で見たヒガラ、エナガ。豊平公園で見たコムクドリ、アオバズク。確認できた時のことは、今でもはっきり思い出すことができるのです。

先日いただいたチェックリストで調べてみると、今まで見た鳥は29種類でした。6月24日の探鳥会で確認できた鳥は25種類ということですが、私がはっきり見たのは19種類です。半年ほどのバードウォッチング歴で、10種類を見たにすぎないのに、たった3時間で、そのほぼ2培の数を確認できたのですから驚きです。参加されていた人達の目のよさには、本当にびっくりしてしまいました。

東米里は本当に良い天気でした。青い空の下、そよ吹く風の中で草原を見つめます。オオジュリンがいました。ノビタキがいました。アオジもはるかむこうの木の上にとまっています。楽しそうにさえずっています。気持ち良さそうに飛びまわっています。しばらく歩くとノゴマがいました。アリスイがいました。コヨシキリは大きな口をあけてないています。

昼食休憩の後、シメの親子を見ました。アカモズも悠然と木の上にとまっていました。何とたくさんの鳥たちに会えたことでしょう。

鳥達と友達になれるような気がしています。新しい鳥を覚えるたびに新しい世界が開けます。開く様な気がします。自然と一つになっていく様な気がします。

〔記録された鳥〕　アオサギ、トビ、オオタカ、イソシギ、オオジシギ、キジバト、カッコウ、アリスイ、ヒバリ、ハクセキレイ、モズ、アカモズ、ノゴマ、ノビタキ、コヨシキリ、ホオアカ、シマアオジ、アオジ、オオジュリン、カワラヒワ、シメ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス　以上25種

〔参加者〕　安達英一・恵美子、古川春雄・恵子、萩千賀、羽田恭子、長谷川涼子、早瀬広司、堀内　進、今川義雄　泉屋宣志・恵津子、道川　弘・冨美子、宮島隆生　長岡宏幸・範子、猿子正彦、浪田良三、沢田英雄、関口健一、霜村耕介・耕一、四月朔日英夫、清水　幸・朋子、曽根モト、菅原、谷口一芳・登志、戸津高保・以知子、矢口兼江、以上33名

〔担当幹事〕　早瀬広司　関口健一

〒０６２　札幌市豊平区平岸４条３丁目１－29
河合マンション６号

探鳥会あんない

〔ウトナイ湖〕
昭和59年11月18日（日）
午前10時集合。
〔小樽港〕
昭和59年12月16日（日）
午前10時　国鉄小樽駅
（観察はバス利用となるはずですので700円ほど参加費はかかります）
〔藤の沢〕
昭和60年1月20日（日）　午前10時　定鉄バス定山渓線
藤の沢下車　白鳥園（徒歩20分）参加費 500円
〔野幌森林公園を歩きましょう〕
昭和59年11月11日（日）　12月2日（日）　大沢口駐車場入口
午前9時30分集合、又は百年記念塔前8時30分集合。大雨や暴風雪以外は行います。昼食、筆記用具、観察用具ご持参ください。防寒には十分ご注意ください。
探鳥会の問い合わせは長谷川まで(011)865-1735

鳥民便り

◇定例幹事会報告
59年7月4日（水）　18時30分～20時30分
札幌市民会館会議室　出席幹事12名
〔審議内容〕
1. 野鳥だより第56号に会員名簿作成用ハガキを同封し発送を完了した事及び、傷害保険の契約更新をしたことについて報告があった。
2. 絵ハガキ作成のための具体的説明があった。
3. 新たに入会案内用ハガキを1000部印刷の予定であり、内容は編集担当幹事に一任する事になった。
4. 会員名簿の作成手順について説明があった。
5. 野鳥だよりの内容を充実させるための計画説明があった。
6. 来年度の東米里探鳥会の実施について再検討する事になった。

◇　定例幹事会報告
59年8月1日（水）18時30分～20時、市民会館会議室、出席幹事12名
〔審議内容〕
1. 59年度幹事会会議室の予約について説明があった。
2. 入会案内の印刷状況について報告があった。
4. 野鳥だより第57号の編集計画について説明があった。
3. 会員名簿の回答状況について報告があった。

◇　定例幹事会報告
59年9月5日（水）18時30分～20時、市民会館会議室、出席幹事11名
〔審議内容〕
1. 入会案内用のハガキができ上った旨報告があった。
2. 会員名簿の大きさ、掲載内容、作成部数等について説明があり、ほぼ原案どおり了承された。
3. 絵ハガキの作成について説明があり作成のプロジェクトチームを幹事会とすることとし、作成部数、作成時期、対象種、価格等について協議した。

◇　入会案内用のハガキができあがりました。野鳥だよりに同封しましたので、友人の方達など鳥に興味を持っている方がおりましたら差し上げるなどしてお使い下さい。

◇　会員名簿の作成について
幹事会報告の中で再三お伝えしておりました会員名簿ができ上がりましたので、野鳥だよりに同封いたしました。会員相互間の連絡などに役立つと思いますのでご活用ください。

〔編集後記〕

太平洋放水路計画に断固反対する、今回のように大規模な自然破壊をともなう計画は絶対に許されるべきことではない。十分な調査もせず、少なくとも10年や20年はかけて、自然環境の保全を最優先させるよう努力すべきではないか。すぐれた自然環境は、我々、道民の共有財産であり、これを未来へ引き継ぐことは国や地方公共団体の義務ではないか。ウトナイ湖は日本初の野鳥の聖域として、世界的にも貴重なものであり、無計画で早急な計画案はただちに中止すべきだ。一億円以上もの募金の成果をそう簡単につぶされてなるか。とりあえず計画中止の抗議を書いたハガキを知事と道開発庁へぶつけよう。（猿子）

〔北海道野鳥愛護会〕　年会費　1,500円（会計年度4月より）　郵便振替　小樽18287
〒060 札幌市中央区北1条西7丁目　広井ビル5階　北海道自然保護協会気付 ☎(011) 251－5465